

支 部 の ペ ー ジ

平成 25 年度東北支部大会の開催

平成 25 年 11 月 8～9 日に岩手県盛岡市大通のリリオにおいて、平成 25 年度日本水産学会東北支部大会が開催されました。本大会では岩手県水産技術センターの協力のもと、事務局である(株)水産総合研究センター東北水産研究所(水研セ東北水研)が開催事務にあたりました。

大会初日は午後からミニシンポジウムを開催し、その後、支部幹事及び会員の多い機関の窓口担当者(連絡幹事)の合同会議を行いました。翌日には 18 題の一般研究発表(口頭発表)が行われました。ミニシンポジウム参加者は、事前登録者 44 名でしたが、15 名の当日参加者が加わり、最終的には 59 名という大勢の方に参加して頂きました。話題が震災の状況や復興に関することで、大勢の方の興味を引く話題であったためと考えられます。翌日の一般研究発表を含め 2 日間、活発な論議が行われました。

1. ミニシンポジウム

東日本大震災発生以降、沿岸漁業は様々な支援を受けながら復旧・復興が進められていますが、進捗状況は様々で、被災県によっても状況異なります。被災地における漁業の復興を達成させるためには、震災復旧の正しい現状を把握するとともに、これまで続けられてきた支援がどの程度有効に機能してきたかを検証し、さらに今後どのような取り組みが必要かを整理し、個々の取り組みを有機的・効果的に機能させることが重要となります。そのような状況を肌で感じている岩手県水産技術センター 後藤友明会員と学術的な復興事業を推し進めている東北大学 原 素之会員がコンビナーとなり、「沿岸漁業における東日本大震災からの復興の現状と展望」というテーマで沿岸漁業における震災復旧・復興の現状評価と水産研究分野での取り組みをレビューし、問題点の整理と今後の展望を検討するという趣旨で開催されました。

開会后、主催者代表として小谷祐一支部長、開催地代表として井ノ口伸幸所長(岩手県水産技術センター)から挨拶が行われ(写真 1)、コンビナーの進行のもとで以下の 2 つのセッションについて講演と総合討論が行われました(写真 2, 3)。

セッション 1. 大震災からの沿岸漁業の復旧・復興状況の現状



写真 1 岩手県水産技術センターの井ノ口伸幸所長による開催地挨拶



写真 2 ミニシンポジウム参加者



写真 3 ミニシンポジウムでの総合討論

- ① 「なりわい」重視の復旧・復興対策：大村益男(岩手県農林水産部)
 - ② 宮城県における大震災からの沿岸漁業の復旧状況について：山岡茂人(宮城県水産技術総合センター)
 - ③ 福島県における漁業の復旧・復興の現状と課題：鷹崎和義(福島県水産事務所)
- セッション 2. 大震災以降行われてきた試験研究の

取り組み

- ④ 東北水産研究所による震災後の漁場環境の実態把握：神山孝史（水研セ東北水研）
- ⑤ 岩手県水産技術センターにおける震災対応の取組について：井ノ口伸幸（岩手県水産技術センター）
- ⑥ 大震災直後における水産試験研究機関の役割：酒井敬一（宮城県水産技術総合センター）
- ⑦ 福島県水産試験場の取り組み：和田敏裕（福島県水産試験場）
- ⑧ 東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系調査）の取り組み：原 素之（東北大学）

震災からの復旧・復興が進められる中で、一度立ち止まってこれまでの流れをよく見て、これから進むべき道を確認する、そういった意味の込められたミニシンポジウムでした。セッション1では行政側から見た復旧・復興への流れが示され、それぞれの被災県の考え方や問題点が浮き彫りになり、セッション2では試験研究機関での取り組み状況が示され、全体としての対応状況が網羅されたと思われます。この点から、これまでの流れをよく見る目標は達成できたと思われます。活発な質疑のために総合討論の時間が少なくなり、行政側、研究側としてこれから進むべき道について十分論議出来なかったことが少々残念でしたが、業界からの声を含めてそれぞれの立場での復旧・復興への見方が理解されたことは収穫であったと思います。震災後2年8カ月がたち、このような趣旨の研究集会在今後も続くため、これから進むべき道についてはそれぞれの場で論議を進めて頂きたいものです。

2. 一般研究発表

一般研究発表は18題すべて口頭発表で行われました。内容は、貝毒、二枚貝、魚類資源、磯根資源生物、利用加工など多岐にわたり、学生会員からベテラン会員まで幅広い年代の発表で構成されました。例年よりも貝毒の課題が多く、震災後に問題になっていることを象徴しているように思えました。東北支部では、若手研究者による一般研究発表（審査希望のあったもの）の中から、東北地方における水産学の活性化および水産業の振興に貢献する優れた研究成果を選定し、支部長賞を授与しています。本大会において支部長の定めた審査委員の評価によって、今回は以下の2題の支部長賞が決定しました。受賞課題の表彰は今年度の東北支部例会后に行われる予定です。

平成25年度東北支部支部長賞受賞課題

「電磁波を用いた水産物・加工品の迅速解凍法」

発表者：芝 頼彦・佐藤 実・山口敏康・中野俊樹
（東北大学大学院農学研究科）

「マガキを中心とした二枚貝浮遊幼生の分類とその応用について」

発表者：西谷 豪（東北大学大学院農学研究科）・渡辺允浩・渡辺 茂（宮城県漁業協同組合）

3. おわりに

今年度は、重篤な被害を受けた岩手県での開催となり、いまだ復旧・復興業務が多忙にある中で、岩手県会員関係者には大会運営やミニシンポジウム企画・運営に多大なご協力頂きました。この誌面をお借りして、深く感謝申し上げます。震災前から会員数の少ない東北支部ですが、震災の影響でさらなる会員の減少が懸念されます。特に、北里大学の会員が震災のために東北支部から関東支部に所属異動することは、東北支部にとってかなりの痛手です。この逆境を跳ね返すためには、新たな会員を増やすことと、支部の活動を会員の皆さんで盛り立てていくしかありません。支部大会は各県の持ち回りで開催することになっており、各地で盛大な支部大会を今後も続けていくことで、支部全体の活性化と会員数の底上げにつながればと願う限りです。

（水研セ東北水研 神山孝史）

平成25年度第22回全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会（東北地区大会）に参加して

日本水産学会に公益性の高い活動が求められている中で、東北支部は昨年から全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会の東北地区大会に参加し、高校生の研究の奨励と進展に役立つ取り組みを始めました。今年度は、2年目の取り組みとして新たな局面を迎えました。以下にその概要を報告します。

本研究発表大会は、平成25年11月7日（木）に山形県鶴岡市の山形県立加茂水産高等学校体育館において開催されました。本大会は、東北地区関係高校長協会地区長および主幹高校校長からの依頼で、日本水産学会東北支部から2名の審査員を派遣することになり、小谷祐一支部長の指名で東北大学大学院農学研究科の佐藤實教授および事務局の神山が参加しました。外部評価委員を入れることでより客観的な審査体制にしたいという高校側と、より公益性の高い活動を進める必要のある日本水産学会東北支部の両者の意図が合致した結果といえます。昨年度は、オブザーバーとしての参加でしたが、今回は正式な外部審査員としての参加となりました。各高校から、パワーポイントを用いた9課題のプレゼンテーションが行われました（写真4）。非常にバラエティーに富んだテーマで、どれも高校生らしい発想のもとで取り組まれた内容で、地域水産業に大きく貢献しそ



写真4 高校生による研究発表



写真5 支部長奨励賞の授与

な課題もありました。各課題のプレゼンテーションの仕方には、多様な説明技術を組み込み、見る側の意識が十分考慮されているように感じられました。万全な準備の後に本番に臨んでいる様子を感じられ、我々も見習うべき点がありました。それには指導する先生方の影の苦勞もあったように思われます。

発表後に、佐藤 實教授から、今後の各校の研究の進展につながる講評とともに、最優秀発表課題となった秋田県立男鹿海洋高等学校「アカモク (*Sargassum horneri*) の効率的な増殖に関する基礎研究」に対して支部長奨励賞を授与いたしました(写真5)。本賞によって、生徒皆さんの研究意欲がさらに向上することを期待したいと思います。

本研究発表大会への支部代表者の参加および支部長奨励賞の授与は昨年から試行的に実施しているものですが、この2年間の状況から、東北支部の参加は、高校側からも重要な事項として評価されているように感じられます。それを踏まえて、支部として今後の参加のあり方を正式に決めていく必要があります。最後になりますが、本研究大会への参加に当たって大変お世話になりました山形県立加茂水産高等学校の関係教諭の皆様にお礼申し上げます。(水研セ東北水研 神山孝史)